

コロナ後の変化は？

新型コロナウイルスの影響で減った問い合わせも、5類感染症に移行した現在では、過去最高ペースに迫る勢いのように。ますます盛り上がっていきそうだね。



キャンプ・大会開催までの流れ



CASE 1
[団体] スポーツコミッション沖縄
https://www.sports-commission.okinawa/
ホームページ

アスリートと沖縄をつなぐ
コーディネーター

沖縄県スポーツ協会に事務局を置き、県、沖縄観光コンベンションビューローと連携。団体や個人からの問い合わせを受けて宿泊施設、競技場情報などを提供し、円滑にキャンプやイベントができるようサポートする。プロモーション活動のほか、受入市町村と歓迎セレモニーも実施。プロ野球やJリーグに続けと、自治体や競技団体と連携してラグビーチームの合宿誘致に取り組んでいる。

県民一体となって、キャンプ誘致を実現！

CASE 3
[自治体] 沖縄市
https://okicitysc.jp/



スポーツの街として
受入実績は県内一！

スポーツを通したまちづくりで、地域活性化

スポーツ交流のまちづくりを目的に「スポーツコンベンションシティ」を宣言した沖縄市は、県内41市町村の中で、最も多くスポーツコンベンションの誘致に成功している。市内に陸上競技場やトレーニング施設などを備えた大型の運動公園が2か所あり、2022年度には119団体が市内でスポーツ合宿を実施した。野球や陸上、バレーボールなどさまざまな競技団体が訪れていて、スポーツ教室の実施や応援イベントを開催し、地域活性化に取り組んでいる。

CASE 2
[施設管理] 東洋グリーン株式会社
https://www.toyo-green.com/



練習環境の改善で
受入数が2倍に

競技場の芝生環境を整備し、人材育成にも貢献

サッカーやラグビーなどスポーツを行う競技場の芝生を「スポーツターフ」といい、選手を守り、プレーの質を高めるために重要な要素のひとつとされている。東洋グリーン株式会社は、野球場も含め県内11か所の競技場を管理する芝のスペシャリスト。2012年度から県が5年間行った「芝人養成事業」では研修者を育成。その成果もあり、サッカーキャンプ受入数は2011年度の12チームから、2022年度には24チームまで増えた。

うちなー調査隊
まとめ

スポーツコンベンションを推進することで
沖縄の経済が豊かになる！



- ✓ 観光客が減るオフシーズンのキャンプ実施により沖縄観光の課題解決が期待できる。
- ✓ プロモーション活動、環境整備、受入体制構築の3つの要素がそろうことでスポーツコンベンションを誘致できる。

まずはココ！
合宿や大会開催に向けた
問い合わせ対応窓口



(写真提供:スポーツコミッション沖縄)

進め！
うちなー調査隊

県内の気になるコト・モノを知れば
沖縄がもっと面白くなる！

スポーツコンベンションで、
沖縄が豊かになるってホント？



スポーツのキャンプや大会などを指すスポーツコンベンション。次世代の育成や地域活性化、さらには経済的効果も期待されており、国内外からたくさんチームを誘致しようとするさまざまな活動が行われています。

沖縄観光業界の
課題解決にも貢献

例年、沖縄ではプロ野球やサッカーのJリーグなど、多くのスポーツチームがキャンプを行います。年中温暖な気候はアスリートにとって魅力的。また、8月25日からは、フィリピン、インドネシアと共同でFIBAバスケットボールワールドカップ2023が開催されます。本大会を機に、今後も大規模な国際大会の誘致が期待できそうです。

行政と民間が
一体となった取組で
誘致を実現

スポーツコンベンションは沖縄の観光にとって重要です。県内における経済効果は、2022年のプロ野球春季キャンプで43億4700万円、2023年の沖縄サッカーキャンプでは約20億736万円とされています。県が発表した、コロナ禍前の2019年度版「スポーツコンベンション開催の観光効果」によると、県内における経済効果は、2022年のプロ野球春季キャンプで43億4700万円、2023年の沖縄サッカーキャンプでは約20億736万円とされています。県が発表した、コロナ禍前の2019年度版「スポーツコンベンション開催の観光効果」によると、県内における経済効果は、2022年のプロ野球春季キャンプで43億4700万円、2023年の沖縄サッカーキャンプでは約20億736万円とされています。

「スポーツコンベンション開催実績一覧」によると、合宿や自主トレーニングは2月に最も多く開催され、1〜3月の3か月間で76.4%を占めました。1〜2月は沖縄への観光客数が少ない「閑散期」とされています。宿泊業や飲食業を中心に経済効果を生むだけでなく、沖縄観光にとって課題だった「閑散期と繁忙期の平準化」への寄与が期待できます。

「スポーツコンベンション開催実績一覧」によると、合宿や自主トレーニングは2月に最も多く開催され、1〜3月の3か月間で76.4%を占めました。1〜2月は沖縄への観光客数が少ない「閑散期」とされています。宿泊業や飲食業を中心に経済効果を生むだけでなく、沖縄観光にとって課題だった「閑散期と繁忙期の平準化」への寄与が期待できます。

宿泊施設や練習会場などの情報提供を行っています。また、市町村でも協議会を設置し、地域住民と協働でキャンプ誘致に取り組む自治体もあります。

練習環境もさまざまな場所で改善が進んでいます。例えば、県が実施した「芝人(しばんちゅ)養成事業」によって、芝生を管理する職人が養成されて競技場の芝環境が整い、沖縄でキャンプを行うサッカーチームが増えました。また、トップアスリートも使用するトレーニング機器をそろえた公営施設も増え、アスリートが理想とする練習環境の整備が進んでいます。

誘致活動や環境整備、受入体制が整うことで理想のスポーツコンベンションが実現します。経済だけでなく、地域活性化や県民の競技力向上にもつながる取組に、今後もますます目が離せません。

※1 (株)りゅうぎん総合研究所「沖縄県内における2022年プロ野球春季キャンプの経済効果」より
※2 (一財)南西地域産業活性化センター「沖縄サッカーキャンプ2023の市町村別にみた経済波及効果」より

熱中症は予防が大切！こえかけで防ごう！
こまめな水分補給、炎天下を避けよう、風通しを良く、健康管理！
今日の暑さ指数を確認してみよう！

熱中症は予防が大切！こえかけで防ごう！
こまめな水分補給、炎天下を避けよう、風通しを良く、健康管理！
今日の暑さ指数を確認してみよう！